

復興に駆ける！

第 9 号
平成 25 年 7 月 17 日 発行
岩手県立生涯学習推進
センター

平成 25 年度読書ボランティア研修会 (6 月 25 日開催) より

読み聞かせボランティア「おどつつあんs」

代表 前川 克寿 さん



事例発表をする、前川克寿さん

宮古市で活動する読み聞かせボランティア「おどつつあんs」は、地域のイクメン（育児を楽しむ男性）の父親が中心となり、約5年前に結成したグループです。主に、子ども達へ絵本や紙芝居の読み聞かせを行っており、現在は12名のメンバーで活動をしています。

東日本大震災では、本拠地の宮古市が被災し、当初はメンバーの安否も分からずにいました。その後、全員の無事が確認され、代表の前川さんをはじめとするメンバーが避難所でボランティア活動をするなど、復興のために精力的に活動しました。また、「子どもたちの読書環境を復旧させていきたい」という思いから読み聞かせの活動も再開して、被災地や県内各地で活動をしています。

震災後、生活を立て直すことが最優先とされる中、「こんな状況だからこそ、子どもたちには明るく元気に育ってほしい」との思いから、避難所などで絵本を配布するボランティアを始めました。「絵本配布プロジェクト」と名付けた取組みですが、当初絵本の数が充分ではなかったため、全国から本の寄付を仰ぎました。届いた5,000冊を超える絵本を沿岸地域の子どもたちに届け、プロジェクトを完遂させました。また、被災地の保育園に送る本棚作りにも取り組み、各地に届けました。新しい試みとしては、宮古のコミュニティFMでの絵本の朗読や、「おどつつあんs」と「ファザリングジャパン」の方々とのコラボ企画「おはなしライブ」で（「おはなしライブ」の詳細は「おどつつあんsブログ」の会報にて閲覧できます）被災地各地をまわる活動なども行いました。同時に、会場内で絵本の配布も行い、段ボール15箱分の本を会場内のフリースペースに設置し、参加した方や地域の方々に提供し、読書を楽しむ機会を提供しました。

前川さんは、全国からの絵本の寄付を受け「『被災地の私たちは孤独ではないのだ』という、この連帯感があったからこそ、今まで活動してこられたのだと思います」と語っていました。今まで、訪問した避難所や児童施設で出会った子どもたちの笑顔、保護者や先生方の感謝の言葉、絵本により和らぐ雰囲気など、震災直後はこわばっていた子どもたちの表情が今はだいぶほぐれてきたそうです。震災直後「子どもたちのため」という使命感から行動を始め、それが確実に実を結んでいます。

子どもが友達とはしゃぎ回る姿を見ながら、今後も子どもたちを笑顔にするために、自分たちができる復興支援を模索していくことと、子ども達を、懸命に育てようとしているお父さん・お母さんのためにも、「おどつつあんs」は、これからも歩み続けると話してくれました。

最後に前川さんは、「人の数だけ読み方があり、本の数だけ面白さがあります。自分達の活動を見て、少しでも子どもに絵本を読み聞かせてくれるお父さんたちが増えれば・・・」とも話していました。

連絡先

E-mail odottuans@gmail.com

ブログ

<http://www.voiceblog.jp/odottuans/>